
永遠の答え

並木沙知子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

永遠の答え

【Nコード】

N4786J

【作者名】

並木沙知子

【あらすじ】

主人公は昔手を出した麻薬から未だ抜けられない。
それどころか、更に嵌って夢か現か分からなくなってしまっている。
そんな時、玄関からノックの音が響き渡って…

永い陶醉に恍惚としていた。

何度も、何度も繰り返し襲ってくる酔いに、唯意識を遠のかせていた。

いや、そうじゃない。

“ 陶醉 ” がよかったんじゃない。

私が酔ったのは、もっと違うもの。

遠い昔に失ったそれを追い求める感情。

遠い感覚が探す。

適切な言葉を必死に追う。

一時的な永遠は未だ存在し続けている。

でも、気が気じゃない。

この永遠は現実の時間で、1時間かもしれない、10分かもしれない……もしかしたら1秒にも満たないかもしれない？

ある日、目覚めた時には30分だった。

……私が遠い昔追い求めていた、“ それ ” は、……そうだ、これ。
刹那に過ぎゆく、欺瞞に満ちた“ 永遠 ” 。

永遠の答え

脳の置くまでとろけるような底の無い陶醉。

それは永遠を思わず望むほど愚かで、消えゆくも知る哀しい響き。永遠に続くほどになれば苦痛で、切れた時には全身の苦痛が襲う。いつそ知らなければよかった、と舌打ちした回数なんてもう数え切れない。でも、勝てない。

プラスチックの使用済みの…空の容器がくすんだフローリングに転がる。

いつからだろう、依存し始めたのは。

壁にかかった埃っぽいカレンダーは何も教えてくれない。

よく見ると青白い腕は不気味で、常に震えている。

寒いのではない、暑いのではない、微かな白い粉のせい。

紅い痕がたくさん鬱血した腕で私は何を抱けるのだろう、何を追い求めるのが許されてるんだろう。

何も許されちゃ居ない、あの日の自分から。

それ以上の罪悪感なんていらないのに、気付けば新しい粉の袋。

微かな重さは、前回よりも重い。

なんでだろう、お金なんて払ってない。事実財布は触った形跡の一切無い気に入っていた鞆の中ははず。

私はあの白い粉のせいで魔法使いにでもなったのかしらん？

…なんちゃって。

結局体内に溶けてゆく白い粉たちのせいなのかそうではないのか、とりあえず機嫌がいい。

数少ない機嫌のいい日、この間に新しい話を書いてしまおうと思ったのに。

アイデアは浮かぶ、紙もペンもある、なのに文字が読めない。

それでも人より上手い自信のあった字、本人すら読めない。
そのせいでせつかくのアイデアたちも消えていく。

生きる為のお金すらない。

また貯金を崩さなきゃいけない。どうしよう、収入なんて無いのに。

毎日の生活の答えすら見つからない。

何が悪いのか、それはわかってるのに。

それを生活から失くす考えが浮かばない。

なんでそれなしで生きていけるのだろう？

生活の出口が見つからない。

扉なんてもう閉ざされてしまった。

私の手なんかじゃ開かない。

せつかく今頃見つけた開かない出口の扉の前で、唯私は崩れ行く身体に脱出を阻まれ、ひれ伏し、朽ちてゆく。

誰も来ないはずの部屋、3回1セットのノックを2回繰り返される。

面倒なはずなのに身体は勝手に玄関に向かう。

今までもめんどくさい考え事を捨てて、私はマリオネットのように従順に玄関の扉を開けた。

疑いなんてもう持つことすら出来ない。

見慣れた風景の中、出した手に白い粉がのる。

私は狂喜して扉を閉める。

誰が渡した？

そんなの、どうだっていい。
粉が手に入るのなら。

永い陶酔の前に、身体は悲鳴をあげる。

もう陶酔に追いつけない、無闇な永遠は苦しい。

抜け出したい、けどあのプラスチックから離れられない。

欺瞞に絡まりもう抜けられない。

ただ、小さい頃に望んだ“永遠の幸せ”に触れたかった。きっとそれだけなんだと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4786j/>

永遠の答え

2010年12月30日18時30分発行